

2025 年 9 月 29 日

安全保障研究部会第 1 回海外研究会参加報告
(エストニア国防省主催「Annual Baltic Conference on Defence 2025 (ABCD)」)

2025 年 9 月 23 日～24 日、安全保障研究部会長佐々木がエストニア国防省主催の「Annual Baltic Conference on Defence 2025」に招待され、パネリストとして参加・登壇しましたので報告いたします。(以後、部会員には報告会を実施予定)

【2025 年 9 月 23 日～24 日@年次バルト国防会議 (ABCD) @タリン、エストニア】
エストニア国防省/国際安全保障センター (ICDS) 主催
「Enemy at the Gate : Turning Europe into a Fortress (門前の敵、欧州の要塞化)」

多数の政府関係者や軍関係者（主に欧州/NATO 関係国）、シンクタンクが参加。
CSIS、Stimson 以外にも DC から少なくとも数組織が参加。
一方で、米軍としての参加者は見られず（NATO としての参加者はいた様子）。

各基調講演やパネル議論を総じて述べると以下のとおり。

- ・エストニア主催ということもありエストニア関係者からは終始、バルト海の重要性や危機（対ロシアの最前線）を強調
- ・欧州の他の国に比べ、バルト 3 国、フィンランドのロシアに対する警戒感が高い。
（トランプ 2.0 によるアメリカの関与低下をきっかけに、EU がやっと対ロシアの危機感に目覚めたとの認識。遅いし、諸々の進捗も遅い！との指摘も）
- ・ロシアに対して脅威認識はあるも、危機意識レベルが国により高低があるようで一枚岩ではない、統合オペレーションや手続きなどで課題山積の様子。
- ・EU、NATO での連携、官民連携等の重要性、オペレーションなどの Interoperability 向上、共同購買の促進などを求める声。
- ・北朝鮮や中国のロシア支援に関心は高いが、あくまで対ロシア視点であり、台湾有事への関心ではない様子。
- ・ウクライナから学べることを学び、早期のインテグレーション（2 週間で技術をアップデートしていくサイクル）の必要性を多数が言及。
- ・ソフトウェア開発、随時のアップデートが効果的な攻撃や防御に重要であるとの指摘。
- ・エストニア登壇者「テストベッドとしてエストニアを使って！」と繰り返し言及。
- ・「ドローン」「量子暗号」「クラウド」「AI」などの先端技術の早期適用の重要性を強調
- ・技術でロシアに先んじることの重要性。
- ・軍関係者からは防衛産業側の動きの遅さを指摘する声。大量に武器や弾薬作れる体制を早

期確立して欲しい！

- ・一方で、産業界からは、防衛製品などの政府調達制度の複雑さ、スピードの遅さ、そもそも政府からオーダーが出てこないことについて改善要求。
- ・ファイナンスの仕組みの確立も業界団体からコメントあり。欧州内での手順の標準化を求める声も。
- ・米国を信用し過ぎず、自分たちでやれる体制の早期確立をとの声多数（米国が引いた時のPlan B 準備）。米国登壇者（CSIS）からも同じ言及あり。
- ・NATO オペレーション（軍同士の連携）は米軍と問題なく連携できているとの軍関係者からコメント。
- ・一方で、ウクライナの Security Guarantee に関する質問は、政治的質問であるとして、軍関係者は回答せず。

ICDS 関係者情報

- ・去年の ICDS デジタルサミットには、河野太郎議員が参加。
- ・イベント事務局長の奥様が、過去に河野太郎議員事務所でインターン経験あったため、日本びいきのところあり。
- ・最近、東大研究所のロールズ（小泉悠、東野敦子、など）がエストニア来訪。連携予定。
- ・エストニアのインテリジェンス情報によると、脅威が高まっているとの話もあり
- ・NATO はバルト三国に幹事国を置いている（エストニア（イギリス）、リトアニア（ドイツ）、ラトビア（カナダ））。
- ・アメリカがバイ（バルト三国やフィンランドとの二国間合意）による支援から引く話も出ているようで、影響が大きく懸念。

【2025 年 9 月 24 日（水）午前 8 時 00 分～9 時 00 分 ABCD 朝食会「北の枢軸」】

佐々木、韓国専門家、英国のロシア専門家がパネル登壇。

質疑含めた、登壇者からの指摘、コメントは以下。

- ・北軸（ロシア、北朝鮮、中国）は、取引的連携（軍備の提供、技術の提供、人の提供等）を中心とした協力関係。
- ・一方で、歴史上の国境紛争もあり、深い不信感が存在していることも留意要。
- ・北朝鮮はロシアとの関係を深める方向にあるが、中国に対しては一定の距離を置く傾向。
- ・南軸（アメリカ、日本、韓国）はキャンプデービッドサミットを契機に、ミサイル防衛やリアルタイム情報共有で緊密な関係を構築。
- ・安全保障面からの連携強度は、北軸より南軸のほうが強いであろうとの指摘。
- ・EU の状況については、EU 各国は個別に強化を図っているが一体としてはまだまだ弱い、とのコメントも。

- ・北軸においては、核能力の協力拡大の可能性はあるが、一方で不信感もある関係でもあるため技術供与などどこまで協力し合うか注視要。
- ・南軸はアメリカの核拡大抑止が前提。一方で米国への信頼性への低下もあり（トランプ政権の取引的アプローチ）、日韓ともに核議論が活発に。
- ・日本は核に対するアレルギーが指摘されており、核開発や核保有ではなく核シェアリング議論が現実解ではないかとの指摘も。
- ・現時点で台湾有事（軍事行動）の可能性は低いが、発生した場合には米国など西側の関心が集まり、ロシアが対欧州で行動を起こす余地が高まることが懸念か。
- ・イランのロシア支援も注視要。（無人機提供など）
- ・中国が中心となった、南軸の分断工作などに注意が必要。
- ・米日韓、NATO、EU との安全保障戦略の深化が重要。艦艇の来日などは良いデモ。



主催者フェイスブック

<https://www.facebook.com/ICDS.Tallinn/posts/-there-are-concerns-that-military-cooperation-between-russia-and-north-korea-wil/1089731963341426/>